

私たちの求めること

エシカル(ethical)とは、元々「倫理的・道徳的」という意味があります。私たちは、以下のことに配慮して採掘された鉱物を使った製品を「エシカル」と考えています。

- 水、空気、土地を汚染せず、いのちの基盤を守る
- 野生の生物を傷つけず、貴重な生態系を壊さない
- 先住民・居住者の生活や土地を尊重する
- 児童労働や、劣悪な環境での労働を行わない
- 武装勢力の資金源とならず、紛争を助長しない

私たちは、普段使用している携帯電話や小型家電、その他の製品に環境・社会問題を引き起こしている鉱物・金属が含まれていることを懸念しています。そして、これらの製品を製造するメーカーには、鉱物・金属を仕入れる際に、こうした鉱物・金属を使用しないように努める責任があると考えています。そして、メーカーがエシカルな製品を作るには、それを求める市民の声が必要です。ぜひこのキャンペーンにご賛同ください。

エシカルケータイ 賛同

検索

<http://www.ethical-keitai.net/sandou>

エシカルケータイキャンペーン

エシカルケータイキャンペーン実行委員会は、採掘問題の認知を広め、製品を通じて採掘問題を解決することを目指して、2010年7月にエシカルケータイキャンペーンを開始しました。「エシカル」な金属調達をメーカーに求め、市民・団体の賛同を募っています。

お問い合わせ

エシカルケータイキャンペーン実行委員会 info@ethical-keitai.net

アジア太平洋資料センター(PARC)、アムネスティ・インターナショナル日本、WE21ジャパン、国際環境NGO FoE Japan、環境=文化NGO ナマケモノ倶楽部



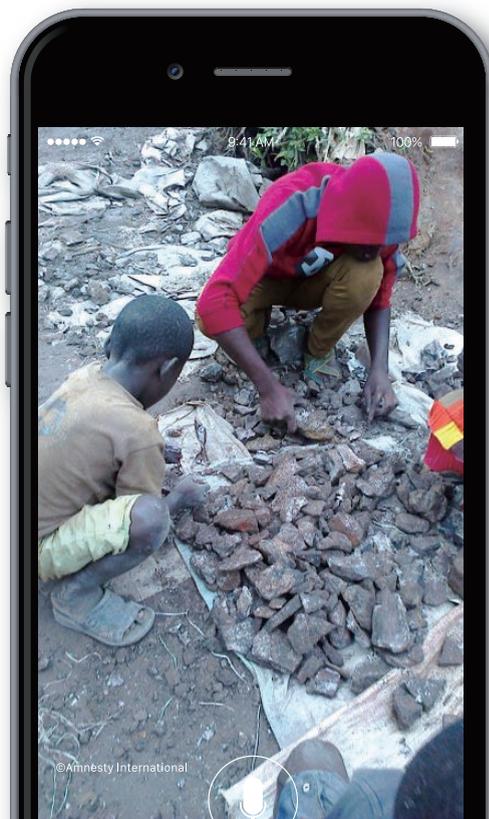
by PARC



スマートフォンの中には 児童労働と環境破壊が？

Apple、Samsung、ソニーなど

世界の名だたる電子機器メーカーの小型バッテリーに使われるコバルトが
コンゴ民主共和国、カタンガ地方の鉱山で採掘されていましたが、
それは児童労働の末に掘り出されたコバルトだった可能性があります。
あなたの身近なスマートフォンの中にも
児童労働の末につくられたバッテリーが入っているのかもしれません。



スズはほとんどの電子パーツを接着するのに使われる金属です。
しかし、インドネシアのバンカ・ブリトゥン島は、
スズの採掘によって島の森林の60%が危機的な状態にあります。
海の中では半分以上のサンゴが損害を受けています。
このスズもパーツ会社を経て
スマートフォンに入り込んでいる可能性があります。

コバルトやスズ以外にも携帯電話やスマートフォンなどの
電子機器には20種類以上の鉱物が使われています。
それは世界中から採掘されていて、
しかもそこにはあまりスマートではない真実が隠れていました。

採掘が引き起こす問題

鉱物採掘は少しの鉱石を得るために、
大量の土砂を掘り起こさなければなりません。
環境に大きなインパクトを与えるものです。
また、地球上で存在する場所は限られているため、
その上にある森林や人びとの生活するコミュニティを排除してでも、
その場で掘らなければ得られません。
そしてひとたび貴重な鉱石の採掘がはじまると、巨大な利権が働きます。
そのため、採掘には様々な問題が付きまわってきます。

Problem 01 汚染



©FoE Japan

日系企業が参画してニッケル鉱山開発・製錬事業が行なわれているフィリピン・パラワン州バタラサ町リオツバ村では、開発現場の周囲を流れる河川から環境基準を超える六価クロムが検出されています。六価クロムは、発がん性、肝臓障害、皮膚疾患等も指摘される毒性の高い重金属で、地元住民の生活や健康を脅かすことが心配されます。

Philippines 

Papua New Guinea

パプアニューギニアの西部オクテディ鉱山では、1984年に鉱山廃液を一時的に溜めるためのダム湖が決壊したために、未処理の鉱山廃液と廃土が合計20億トンもオクテディ川下流へ流されました。以降も十分な廃液処理はされず、鉱山会社BHP Billitonによると1999年までに毎年9000万トンの廃液・廃土が垂れ流しになっていました。東京23区の倍以上の面積の森林がすでに破壊され、長期的な影響を考慮するとさらに倍以上の被害が予想されています。



©Miningwatch

Problem 02 生態系破壊

Problem 03 強制退去



©Amnesty International

Burma (Myanmar) 

ビルマ(ミャンマー)中央部モンユワ地域の山岳地帯は銅資源が豊富です。カナダや中国の外資企業やビルマの国営企業、軍保有の企業による大規模な鉱山開発が進んでいます。地域住民は政府から強制立ち退きをせまられ、土地を没収されています。また抗議活動により、警察に武力で鎮圧されたり、撃たれて死亡したり、重度のやけどを負ったりしています。

Philippines 

フィリピン・北カマリネス州およびマサバテ州の小さな金鉱山では、子どもたちが落盤の危険のある坑内や、溺死する恐れのある水中鉱山で採掘作業をしています。また、金の精製作業のために、有毒だと知らずに水銀を使って、健康被害を受けることもしばしばあります。金採掘は貴重な収入源になるため、貧困家庭の子どもたちの多くが学校をやめて金鉱で働いているのです。



©Human Rights Watch

Problem 04 児童労働

Problem 05 紛争



Democratic Republic of the Congo 

コンゴ民主共和国東部地域では、長期化する紛争で何百万人も亡くなっています。なぜ紛争が続き、暴力の連鎖が収まらなかったのでしょうか？この地域で採掘される希少鉱物が武装勢力の資金源になっていたからです。武装勢力は地域で採掘されるタンタルなどの鉱石の売り上げを使って武器や弾薬を購入していました。こうした紛争へ関与する鉱物は「紛争鉱物」と呼ばれています。

エクアドル: 銅採掘と雲霧林の破壊



危機に瀕する雲霧林と生物多様性

エクアドル・インタグ地方は、世界でも稀な「雲霧林」が広がる地域です。雲霧林は、湿度と温度差が特定の条件下でしか発達せず、世界の森林のわずか1%に過ぎません。中でも、インタグの雲霧林は、生物多様性ホットスポット（生物多様性が高く、かつ保全優先順位の高い地域）が2つ隣接する特別な森です。チャアタマクモザルやメガネクマなどの絶滅が危惧されている動物の他、世界の植物の15～17%、鳥類の20%近くが生息しています。その多くが、世界の他の場所にはいないエクアドルの固有種です。



ここでは1991年から日本政府・企業による試掘が行われ、3.18億トンの銅が埋蔵されていることがわかりました。その際行われた環境影響評価によると、本格的な採掘が始まれば、大規模な森林伐採で貴重な生態系が失われるだけでなく、水質汚染や土壌流出などの環境破壊をまねき、地域住民は移住を余儀なくされます。事実、試掘の段階ですでに水質汚染がおき、地域の子どもたちに皮膚疾患が発生したり、家畜が死亡したりする被害が出ました。

このため地域住民は反対運動を続け、鉱山開発計画は繰り返し頓挫してきました。しかし、現在はエクアドル政府自身が強行に開発を進めており、インタグの森は未だかつてない危機にさらされています。

環境破壊にとどまらない鉱山開発の影響

インタグの人びとは、こうした破壊的な「開発・発展」に抵抗し続ける一方で、自然と共生できる持続可能な発展の道を模索してきました。それは、森を守りながら森林農法で栽培される有機コーヒーやカブヤという植物の繊維でつくった手編み製品、エコツアーや小水力発電という形で実践されています。しかし、国家の計画に抵抗することは、様々な圧力にさらされることも意味します。それは、企業の雇った民兵や国が派遣した警官隊による恫喝や、開発計画をめぐる意見の対立を煽ったコミュニティの分断など、平穏な暮らしを脅かす人権侵害を引き起こしています。

2014年4月には、抵抗運動の指導者の一人であるハビエル・ラミーレスさんが「国家反逆罪」という不当な理由で逮捕され、翌月には数百名の警官隊に伴われた鉱山会社の職員が開発に向けて名ばかりの調査を強行しました。ハビエルさんは、日本の人権・環境分野のNGOを含む国際的な連携による釈放要請の結果、2015年2月に10ヶ月を留置所で過ごした末に釈放されました。しかし、インタグの鉱山開発が止まったわけではなく、インタグの人びとは人権侵害や自然破壊の脅威と隣り合わせの生活を今も続けています。鉱山は環境破壊だけでなく、そこに暮らす人びとの生活をすでに破壊しつつあるのです。



✍ 決して容易ではない鉱山跡地の環境回復

フィリピン・ベンゲット州キブンガン郡ルボ村は、1980年代に行われた露天掘りによって山が二つ失われました。結果、山からの恵みで暮らして来た先住民族の人びとは、生計手段を失い、集落はゴーストタウンと化しました。現在この集落では、住民主体の植林活動が行われています。土壌が侵食し、砂利の多くなった鉱山跡地への植林は、乾季の立ち枯れなど、苦難の連続でしたが、土の埋戻しや地方行政、現地専門家との連携により、ようやく荒廃した土地に緑が少しずつ戻ってきています。現在ルボ村では鉱山会社による採掘権の主張が続いており、住民自身による環境回復と生計手段の回復、すなわち鉱山開発に頼らない暮らしの実現が必要とされています。

コンゴ民主共和国：紛争鉱物と世界の行動

Democratic Republic of the Congo



「紛争鉱物」に翻弄されるコンゴ民主共和国

コンゴ民主共和国(コンゴ)は自然が豊かで、多様な生物がすんでいる国。ボノボやヒガシローランドゴリラ、オカビなどコンゴでしか見られない希少動物も多く住んでいます。しかし、コンゴは同時に世界有数の鉱物産地。タンタル、コバルト、タングステンなどのレアメタルの他、金、銅、スズなど多くの鉱物が採掘され、それが住民の生活の糧となってきました。



ところが、1995年から2003年の間に二度の戦争が起き、戦後も多くの武装勢力がコンゴ東部に残ったために、今現在も国内で紛争が続いています。この間に何百万人もの人が亡くなっており、第二次世界大戦以降最も多くの人命が奪われている紛争地域になりました。この紛争の長期化に寄与していたのが鉱物取引のもたらすお金の流れでした。スマートフォンを始めとする電子機器の需要が高まり、鉱物価格が上昇する中で、鉱物の売却益は武装勢力にとって格好の資金源となり、武器を買い、紛争を長期化することにつながりました。また、紛争が長期化する中で、コンゴでは十分な採掘現場での監視が行えなかったために、児童労働、強制労働や危険な労働環境での採掘が後を絶ちません。

鉱物が武器の資金源になり、鉱山をめぐる利権争いで紛争が激化し、激しい紛争によって監視体制が不足し、そのために児童労働・強制労働が蔓延するといったように、ひとつの問題から連鎖的にほかの問題が発生しやすいのも鉱山採掘の特徴と言えます。



消費者行動・キャンペーンと法規制

紛争の長期化に寄与する鉱物＝「紛争鉱物」と身近なスマートフォンの関係性を知った欧米の消費者は行動に出ました。携帯メーカーや政府に紛争鉱物の使用を制限するように求めました。

消費者のキャンペーンの対象となった企業が「紛争鉱物フリー」を宣言し始め、やがて米国政府も2010年に紛争鉱物への規制を含む「ドッド・フランク法」を制定しました。この法では、対象とする鉱物であるスズ、タンタル、タングステン、金がコンゴ産である場合、追加調査が求められるため、そのリスクとコストを避けるため、コンゴ産の鉱物は世界中から避けられてしまうようになりました。事実上のコンゴボイコット、不買運動が始まってしまったのです。鉱物価格は3分の1、5分の1と下がり、住民の暮らしにも大きな影響が出ています。

法規制の成果もあって鉱物取引の透明性は高まっていますが、元々採掘をなりわいにしてきた住民にとっては厳しい制度になってしまったのです。

えっ！ゴリラも紛争鉱物の被害に？

コンゴ民主共和国の東部地域にしか生息していないヒガシローランドゴリラを保護するカフジ=ピエガ国立公園では、紛争の影響でゴリラの数が半減してしまいました。紛争前にもたった250頭しか生息していなかったゴリラはさらに追い詰められています。長引く紛争で餓えた人びとが国立公園の中で狩猟・採集を行った一方で、レンジャーが十分に紛争地域内での保護活動を行えなかったためです。近年では紛争が収まり、保護活動は活発になりましたが、地域住民の貧困状態は必ずしも改善していません。紛争をとめること、そして貧困を解消することが絶滅の危機に瀕したゴリラを救うには必要なのです。



採掘問題のフェアな解決法

スマホで世界をよりフェアに

Fairphone

紛争鉱物や環境問題、過酷な労働問題など、世界を取り巻く社会問題の象徴ともなっているスマートフォン。それを自分たちで変えていこうと、NGOがイニシアティブをとって開発したスマートフォン「フェアフォン」が、欧州で広がっています。



CC: Fairphone

2013年にヨーロッパでクラウドファンディングによる事前予約で5000件の注文を集めて実際にスマートフォンをつくり、初期モデル6万台を販売しました。フェアフォンは、「紛争鉱物」と言われるコンゴ民主共和国産の鉱物を避けるのではなく、地域経済とその発展を支援することを目指してあえてコンゴ産の紛争フリーなスズと tantalum を使っています。それによって、紛争フリーなコンゴ産の鉱物を使うことが可能だと証明しているのです。また、組み立てを中国の工場で行う、フェアフォンとの取引を通じて労働環境を改善しています。自分たちがかわることで、以前よりもよりフェアな社会が実現するように、調達先や取引先を選び、変化を起こしながらスマートフォンをつくらせているのです。

「フェアフォン」を実現するための運動は、5つのコア分野を掲げ2010年からNGOの啓発キャンペーンとして始まりました。

- 01 できるかぎりフェアな鉱物調達
- 02 長期利用を前提としたデザインで、自分でメンテナンス可能
- 03 労働者を大切に、労働環境を改善する
- 04 使用、リユース、リサイクルまで含むライフサイクル全体への配慮
- 05 新しい経済をつくる社会的企業



CC: Fairphone



CC: Fairphone

採掘問題の解決に向けて、公正に採掘された鉱物を認証したり、私たちの使う製品側から採掘地に働きかけたりする試みが行われています。

フェア採掘の認証

「Fairmined」認証



2004年に設立された小規模鉱山の持続可能な発展をサポートするための国際非営利組織ARM (Alliance Responsible Mining: 公正な採掘のための連盟) によって、Fairmined (フェアマインド; 公正に採掘された) の審査・認証がおこなわれています。ARMでは、金採掘現場における労働者の人権を守り、採掘事業者が買い手を見つけやすくするための市場アクセス支援、国際NGOや政府を巻き込んだ生活向上、紛争の予防、また水銀の使用低減などコミュニティ全体の持続的な発展をサポートしており、基準に沿って公正に採掘された鉱物にはFairmined認証ラベルが付与されます。Fairmined認証の鉱物は、日本でもHASUNA、EARTHRISE、R ethical jewelry等のエシカルジュエリーのブランドで扱われています。

あなたにできること

 「エシカルケータイキャンペーン」に賛同して、メーカーにエシカルな製品を求めよう！

このキャンペーンに賛同いただける方は、ウェブサイトの「賛同する」ページからお名前とメッセージ等をキャンペーン事務局まで送ってください。メーカーを動かすには市民の声が必要です。

エシカルケータイ 賛同

検索

<http://www.ethical-keitai.net/sandou>

身近な製品の金属がどこから来ているか考え、選んで買い、長く使おう

携帯電話などの製品を買う時は、鉱物調達方針や省資源・省エネルギー性能をチェックして選んで買い、買ったものは長く使しましょう。需要を減らすことが採掘を減らすことにつながります。

使用済携帯電話等の回収・リサイクルに協力しよう

金属は繰り返し使えるため、製品をリサイクルすることで、既にあるものを循環させることができます。